



「メコン川流域の持続可能な開発と中国の水問題」

第4回アジア交流セミナーin中国雲南報告会まとめと提言

メコン川は、源流より河口まで国境を連ねる中国、ミャンマー、タイ、ラオス、ベトナム、カンボジアの国々にとって「母なる川」である。その「母なるメコン」は今、流域諸国の急速な経済発展のなかで汚染と開発の波にさらされ、本来の豊穡さを失いつつある。それによって支えられていた生態系や人々の暮らしもまた、危機に直面している。経済的発展と引き換えに失いつつある価値もまた大きいと言わざるをえない。

本日、国境を越えてここに集まった私たちは、ジャーナリスト、科学者、NGO、そして市民の立場から、現状報告をふまえ、メコン川流域の持続可能な開発のあり方と、最上流国である中国の抱える水問題についてともに考える機会を得た。その結果、以下のような提言を関係者に提起することとした。

1 メコン川流域の水資源開発における諸問題、流域諸国がそれぞれ抱える水質問題は、ともにアジアにおける水資源問題という大きな視点のなかで捉えることが必要であること。

2 流域の開発行為や経済活動、生活様式など的人為が、該当する地域のみならず水系全体にどのような環境影響、社会影響を及ぼしているのかを科学的にデータ収集・分析し、誰もがアクセスできるようすみやかに公開すること。

3 とくにダム建設など大規模な水資源開発に関しては、周辺への環境影響にとどまらず、下流域への多大な影響可能性を考慮し、2のような実測結果もふまえ、流域住民の参加も得ながら広範な環境・社会影響事前評価を実施すること。

4 メコン川流域の持続可能な開発に関しては、すべての流域国による話し合いが不可欠であり、最上流国である中国もメコン委員会に参加し他の関係国とともに協議していくことで、中国と下流国すべてのよき関係と豊かな未来をつくっていくこと。

5 今後ともアジアのジャーナリスト、科学者、NGO、そして市民が連携しメコン川の持続的な開発について観察し情報・意見交換することで、私たちはアジアの水問題の解決に向かって行動することを宣言する。

2008年3月18日報告会参加者一同